



子どもは、わざとと言うことを聞かないのではなく「行動の切り替えが苦手」「次のやるべき行動が分かっていない」場合があります。先月号でお伝えした「伝わりやすい指示」と今月号の「予定表」を組み合わせると、子どもが楽しんで朝の行動が身につきます。子どもが様々な場面で活用できるようになると自ら予測して行動ができるようになるだけでなく、自分で予定を組み立てる力もついてきます。例えば「宿題をする」「帰宅後の行動を決める」「テスト前に予定を立て勉強する」「1日」「1週間」などと先を見通してのスケジュール管理ができるようになるでしょう。



子どものできている行動を見逃さないように伝えましょう。子どもの行動の  
**できている行動**と**できていない行動**を分けて伝えます。

例)「じゅんちゃん、食卓に来たね」「じゅんちゃん、トイレの後は洗面所に行くんだよ」

忙しい朝の時間帯に子どものできていない行動ばかりが目につき「早く、早く」と声掛けをしても、子どもが動かない経験をしたことはありませんか？子どもがスムーズに行動できるようにできている  
当たり前の行動を認め(ほめ)てみませんか。できていない行動を教えるのも大切ですが、その前に  
子どものできている行動に注目して励ますことで指示が伝わりやすくなるのが期待できるでしょう。  
例)「じゅんちゃん、一人で起きられて、えらいね」「じゅんちゃん、『おはよう』を言えたね」など

※裏面では「排せつ→洗面→食事」の予定を立てています。朝の流れは、家庭によって違うと思います。家庭に合ったやりやすい順番で試してみてください。毎日のパターンを決めて、子どもに朝のリズムをつくってみましょう。

「朝の場面」で考えてみましょう。



■子育て技術

「予定表」を使いましょう

(子育て手帳 P. 23 を参考にしてみましょう)

子どもが新しい行動を覚えていくことを教える方法の1つに「予定表」があります。子どもが、それぞれの絵はどんな活動に対応しているかを理解ができていることが前提になります。今回は色つきのイラストを使用しましたが、線画や写真や文字など子どもが理解できるもので試してみましょう。楽しみながら、お手伝いやお風呂など様々な場面で役に立ちます。子どもが繰り返し活用することにより一人で使えるようになり予定表を見なくても行動が定着するでしょう。予定表の最後には子どもが喜ぶ活動にします。

【使い方】今回の例では、トイレの横の壁に貼りました。子どもへは前日に「予定表」の使い方を説明しました。



- ① 一緒に予定表の前に行き絵を指さして「ゆいちゃん、朝起きたらトイレに行きます」と促します。
- ② 子どもがトイレに行きました。
- ③ 一緒に予定表の前で絵を指さして「ゆいちゃん、トイレができたね」と伝えます。
- ④ 子どもに行動ができたことを理解できるように子どもがカードを裏返しにするか終わったカードを外して箱に入れます。

- ① 予定表の前で絵を指さして「次は洗面所に行きます」と促します。
- ② 子どもが洗面所に行きました。
- ③ 一緒に予定表の前で絵を指さして「ゆいちゃん、洗面所に行けたね」と伝えます。
- ④ 子どもに行動ができたことを理解できるように子どもがカードを裏返しにするか終わったカードを外して箱に入れます。

このような手順を繰り返していきます。初めは、親が予定表に誘導し、次の行動を伝えます。繰り返すうちに親の指示が減っていき、子ども自身で動けるようになるでしょう。

☆予定表の作り方や使い方が分からない時はお気軽に相談ください。



※「子育て手帳」は、市が開催する「おはなし会」に参加いただいた時にも配布しています。

市の「前向き子育て応援事業」の情報はコチラ



■お問い合わせ 子ども未来課 子育て支援係 ☎ 28-7568

(前向き子育て 担当 石橋)

科学研究費助成事業 (責任者 福岡県立大学 江上千代美)

無断複写・複製を禁ず